

# 報 告 書

2021年 2月 27日

活動実施団体名 行徳生物多様性フィールド  
フィールドミュージアム研究会

責任者名：風呂田利夫

報告書作成者名：野長瀬雅樹

## 1. 活動の名称（タイトル・テーマなど）

フィールドミュージアム「水路の生き物探し」

## 2. 実施日

2020年9月21日

## 3. 実施場所

千葉県市川市新浜3 行徳鳥獣保護区

## 4. プログラム等

10時 集合・受付 挨拶の後保護区内へ移動

10時～ 保護区内の水路・干潟・海岸でタモ網・お魚キラーを使って生き物探し

13時半 終了・解散

## 5. 対象・参加人数（内訳）

一般参加10名(4家族。子供5名・保護者5名)

スタッフ3名

## 6. 活動の内容・状況・感想（参加者並びに主催者）

市街地や倉庫群に囲まれた行徳鳥獣保護区。人工の自然保護区ながら、造成後40年以上が経過した当地には狭いながらも淡水・汽水・海水と繋がる連続的な湿地環境や樹林、ヨシ原など多様な環境が形成されています。フィールドミュージアムはそんな保護区の様々な生き物たちを知り、地域の生き物や保護区の自然に親しんでいこうという調査観察会です。

2020年度第2回は水路の生き物探し。参加者各組は調査ポイント毎にそれぞれのお魚キラーを設置。20分ほど周辺でタモ網を振るい、各地点ごとに捕まえた生き物の観察と解説を行いました。淡水の水路上流部ではクロベンケイガニに加えて海から遡上してきたマハゼがいました。宮内庁鴨場の池の水排出口付近ではアシハラガニやアベハゼ、淡水池の長靴池や棚田状の浄化池ではヤゴやマツモムシの仲間、タモロコやモツゴが採れました。保護区で毎月実

施している定置網調査(江戸前干潟研究学校)とは採れる生き物が若干違うこと、ヤゴが複数種採集されたことが主催者側として興味深かったです。自分達で網をふるって生き物を捕まえられることもあって子供達もいきいきしていました。

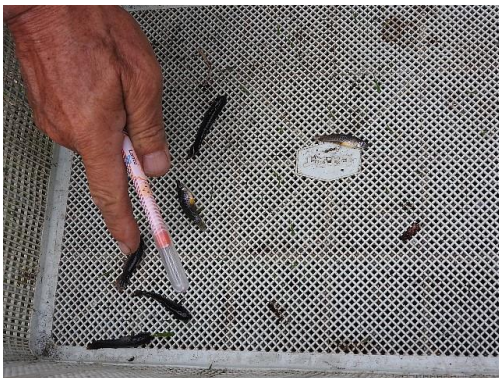
## 7. 写真



宮内庁鴨場排水口付近



海岸部での採集



アベハゼとカダヤシ



お魚キラーに入ったアシハラガニ



イトトンボのヤゴ



マツモムシの仲間